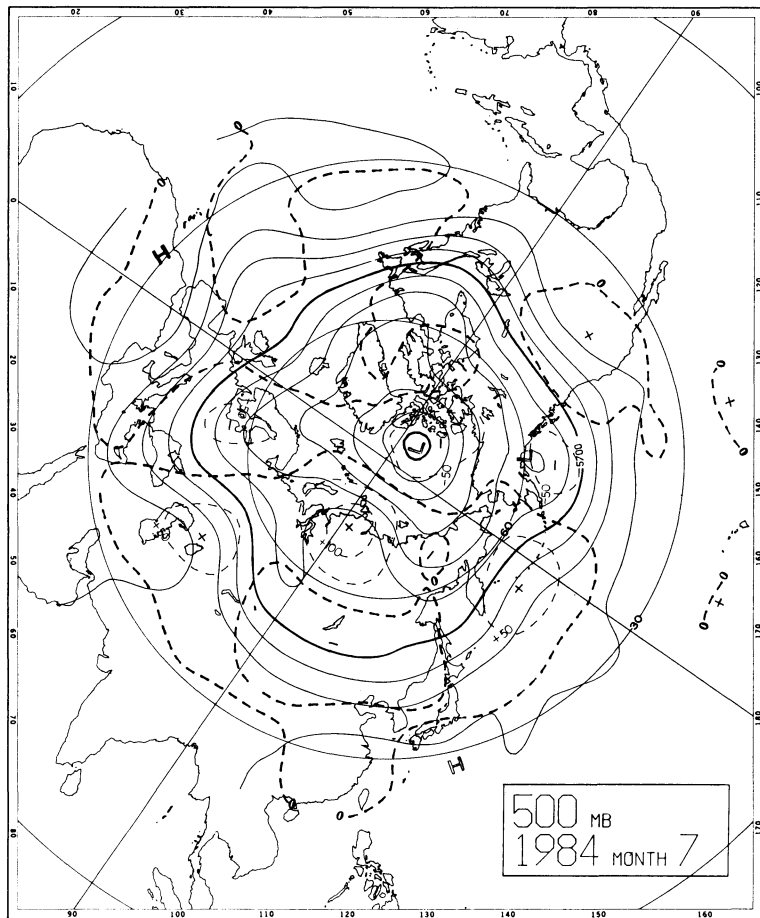


### 月平均500mb天気図。1984年7月。

(破線は平年からの偏差。単位 m)



#### 東方海上の高度高く、変則的な梅雨明け

タイミル半島を中心とした強い正偏差域は前月から持続し、モンゴル付近は弱いながら負偏差となった。また、140~170°Eの20°N平均高度から30°N平均高度をひいた西太平洋亜熱帯指数は、1946年以降の最大となり、亜熱帯高気圧の北方への張り出しが弱いことを示唆している。通常、このような気圧型になると、極からの寒気の南下が起りやすく、冷夏になることが多い。しかし、今年は、オホーツク海高気圧が南下し変質した太平洋高気圧が、千島東方から南西に張り出したため、北日本を中心に全国的な高温となった。しかし、太平洋高気圧の縁辺にあたったため、大気は

不安定で、梅雨明け後もゲリラ的な豪雨が多かった。

極うずは、前月と比べて、少し西半球側に移動し、東ヨーロッパとアラスカへトラフがのびた。ヨーロッパには、寒気が南下しやすく、12日には、ミュンヘンで史上最悪と言われる雹害が生じた。東ヨーロッパやヨーロッパロシアでは涼しい夏となった。

大西洋のリッジ、北米東岸のトラフは、前月とほぼ同じ位置であったが、強さは弱まった。北米西部ではトラフがやや西進し、弱いながら正偏差となった。

インドシナ半島やインド方面では降雨が多く、モンスーン活動は活発であった。

(気象庁長期予報課 山田真吾)